

執筆者紹介（掲載順）

藤原 享和（立命館大学教授）

嶋中 佳輝（本学大学院博士後期課程在学学生）

滝沢 優子（同志社大学大学院博士後期課程退学）

邊 恩田（本学嘱託講師）

平石 岳（本学大学院博士後期課程在学学生）

坂崎 恭平（本学大学院博士後期課程在学学生）

佐藤 未央子（早稲田大学文学学術院客員次席研究員）

佐藤 貴之（本学嘱託講師）

小森 一輝（大阪府立茨木工科高等学校教諭）

翻刻の会（本学学部在学学生、本学教授山田和人）

山本 佐和子（本学助教）

編集後記

本号は、古代から近現代まで研究論文八本、実践報告一本、資料紹介が二本という構成になった。執筆者は、学部学生から大学院生、卒業・修了生、教員にわたる。90号という節目にふさわしく、多くの会員から投稿が寄せられたことに感謝したい。

次号が刊行される頃には、平成も終わっている。明治期～一九四五年を「近代」、一九四五年～現在までを「現代」と称することができるのは、一体いつまでなのだろうかと時々考える。近いうちに、「前の時代に生まれた人」 になってしまってもいい。

思えば、一九四五年に八十歳だった人は江戸時代生まれで、今年八十歳を迎える人は「近代」生まれである。周囲の人を別の時代の人だと思つて、生き方や言語を観察すれば、多少の齟齬は気にならず、興味深い研究テーマにつながるかもしれない。人文系の研究にとって、「長生きの得」 は三文を遙かに超える（六文という意味ではない、念のため）。学会員諸氏の更なる活躍を期待する。